

## キッズシリーズ⑨

# おたふくかぜ



宣 言  
明るい笑顔  
すぐ返事  
伝える元気

かちどき薬品 ホームページ  
げんき君 健康に関する情報がいっぱい  
<http://www.genki1616.co.jp>

かちどき薬品グループ

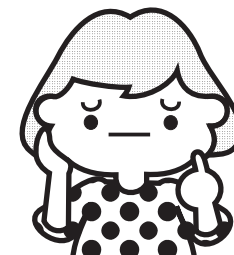
## 「おたふくかぜ」(流行性耳下腺炎) どんな病気?

3歳ごろからかかることが多い伝染性の病気

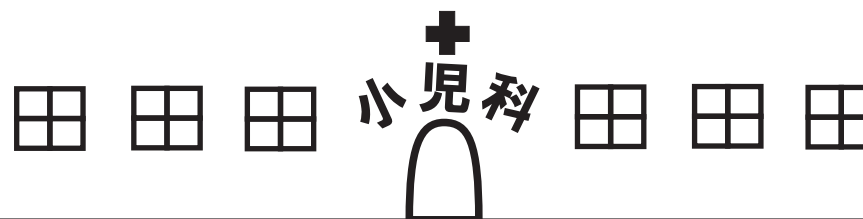
耳の下(耳下腺<sup>じかせん</sup>)が腫れて痛みます。

おたふくかぜは、流行性耳下腺炎の一般的名称です。ムンプスウイルスの感染によって発生するウイルス性の病気です。

おたふくかぜは、通常一度感染すると一生有効な免疫を得られます。



子どもは自分の体調など言葉ではうまく伝えられなかったりします。また、感染症にかかっているにもかかわらず気付いてあげられないことも多いのではないのでしょうか。子どもをよく観察し、「おかしいな？」と思ったら、すぐに病院で受診しましょう。



## <症状>

**耳下腺の腫れ**…耳下腺部(耳たぶ～耳の前のあごのラインに沿って)が腫れます。通常、片側から始まり1～2日のうちに両側が腫れてきます。(4人に1人くらい、片側だけしか腫れないことがあります)腫れは、痛みがありますが赤くなったりはせず、3日ぐらいでピークをむかえ、1週間～10日程度で消失します。

**発熱**…約80%の人に発熱があります。初期に37～39度の高熱が出ることがあります。発熱期間は、合併症がなければ1～3日程度が多いようです。発熱に伴い、頭痛や腹痛が出ることもあります。

**食欲低下**…耳下腺が腫れて痛いため、食べ物が噛みにくい、飲み込みにくいなどの症状が出ることもあります。

**唾液腺の腫れ**…約50%の人は顎下腺(あごの下)や舌下腺(あごと首の間)などの唾液腺が腫れます。耳下腺の腫れと同じで痛みを伴います。

## <特徴>

感染力は比較的弱く、感染しているのに症状がでない「不顕性感染(ふけんせいかんせん)」も、30～40%あります。不顕性感染は、女性や乳幼児に多いと言われていています。

2～9歳にかかることが多い病気で、1歳以下の乳児にかかることは少なく、かかっているにもかかわらず不顕性感染で終わる子どもが多いと言われていています。

なお、母体からの抗体は生後10ヶ月くらいまで有効だと言われていています。

子どもから親にうつることもあります。

合併症として、髄膜炎や睾丸炎がよく知られています。

髄膜炎の発症は男児に多く、3～10%と高い率でかかりやすいのですが、後遺症もなく通常は治ります。

○潜伏期間…2～3週間

○感染期間…はっきりと確定していませんが、**耳下腺が腫れる3日前から、耳下腺が腫れだして4日頃まで**が感染期間と考えられています。



## <感染経路>

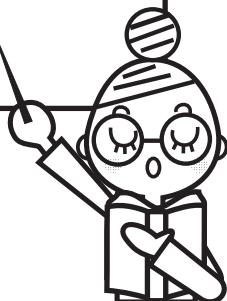
唾液を通じての「**空気感染**」や「**接触感染**」です。



そのため、家族がかかっているときに感染したり、  
保育所・幼稚園・学校など子ども同士が密接に接触  
するところで流行します。



おたふくかぜは、学校伝染病に指定されており、  
感染時は出席停止などの処置がとられます。  
学校保健法で『耳下腺の腫脹が消失するまで』  
と決められています。  
通常の耳下腺の腫れは1週間～10日間程度続  
きます。  
しかし、いろいろな合併症の可能性もあるので、  
無理はしないことが大事です。  
保育所や幼稚園・学校に通っている時は、  
医師の許可がでてから登園・登校させま  
しょう。



## …家庭でのケア…

おたふくかぜの根本的な治療法は現在ありません。  
症状をやわらげるために家庭でのケアが大切です。

### おたふくかぜのケア方法

- あごを動かすと痛むので  
噛まずに食べられる消化のよいものにしましょう。  
おかゆ、プリン、ゼリー、豆腐、スープなど



※痛みが強い時は、唾液が出やすくなる酸っぱい物  
や果汁は避けた方がよいでしょう。  
水分補給も忘れずに行いましょう。

- 腫れているところを冷やしてあげましょう。  
氷やぬらしたタオルで冷やしたり、嫌がらなければ  
冷湿布をしてあげると、痛みがやわらぎます。
- 入浴は熱が下がり、  
腫れや痛みがひいた時に入りましょう。
- 腫れがひくまで(約1週間)は  
外出を控え、家の中で安静に過ごしましょう。

## 〰〰〰 予防・対策 〰〰〰

予防はおたふくかぜワクチンの予防接種以外ありません。現在使用されているワクチンは「ムンプスワクチン」と言い、予防接種は1歳を過ぎると受けられます。任意接種(有料)ですが、ぜひ受けておきたい予防接種です。また、大人が感染すると非常に重症になるので、かかった記憶がない場合は抗体の検査を受けた方がいいでしょう。

### おたふくかぜワクチン

#### ○接種時期

1歳を過ぎれば接種できます。  
任意接種(有料)であり、1年中いつでも可能です。

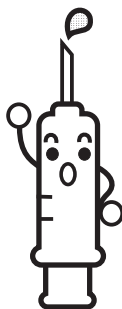


#### ○予防接種の効果と必要性

ワクチンの予防効果は、「約90%程度」と考えられています。  
※予防接種をしても、おたふくかぜにかかることはありますが、症状は軽くなることが多いです。

#### ○副反応

まれに、ワクチン接種後に髄膜炎が発症することがありますが、発症する確率は0.1%以下とされています。また、後遺症を残すこともほとんどないとされています。  
おたふくかぜにかかり、合併症として髄膜炎を発症する確率が3~10%とされていますので、ワクチン接種を受けることが望ましいでしょう。



## おたふくかぜ Q&A

#### ○おたふくかぜは2度かかる？

本物のおたふくかぜは、一度しかかかりません。ただし、おたふくかぜと同じように耳下腺部が腫れるウイルスや細菌がいくつもあり、それらに感染した時におたふくかぜと診断されることがあります。したがって、まわりに流行がない時におたふくかぜと診断された場合は、違う感染症の可能性もあります。また、反復性耳下腺炎といって、何度も耳下腺が腫れる病気があります。

#### ○男児の方が合併症が起こりやすい？

おたふくかぜの合併症として睾丸炎や副睾丸炎があり、思春期以降の男性に高率(20~30%)に合併します。痛みは強く、高熱も伴いますが、不妊の原因になることはまれとされています。また、男児の方が女児よりも3~5倍、髄膜炎になりやすいとされています。ただし、成人の女性にも、5~7%の頻度で卵巣炎が起こります。



### こんな時は、もう一度病院へ

- 頭痛、腹痛がひどく、吐く場合
- 1週間たっても腫れがひかない場合
- 発熱が5日以上続く場合
- 耳の下の腫れが赤くなった場合

